

早期進路決定に繋がる低学年次の動き方

基盤教育研究センター
就職部長 栗野武文

本日の内容

1.本学学生の傾向

2.保護者の方に心掛けてほしいこと

『入学期』

高校時代

『受動的に学校側の用意したカリキュラムと生活様式に応じていく』

→言われるがまま授業を聞き、各学校の用意したルールの中で生活する

大学

『自立』が求められ、『主体的』に取り組むことが当然となる

→生活も学習も進路選択も全て自分で選んでいく必要があり、
多くの学生が心理的に動揺してしまう

『生徒』から『学生』へ

学校教育法でも明確に決められている

中学生、高校生 → 生徒

『生徒』は未熟で他律的、依存的に
『教えられる』存在である

大学生 → 学生

『学生』は**自律的、自立的**に『学ぶ』者である

1.本学学生の傾向

1.本学学生の傾向 本学IR推進室のデータより

1年生前期のGPAが1.8以上3.4以下だと4年間卒業率が安定している。逆にGPA3.4以上だと下がってしまう。

しかし、**1年生後期のGPAが2.0以上あると3.4以上でも4年間の卒業が安定している。**

以上のことから、1年生後期の成績が4年間での卒業に大切になってくる。

学業に不安を抱えると、就職活動を考える余裕がなくなってしまう。

1. 本学学生の傾向 本学IR推進室のデータより 睡眠時間・1日の食事とGPA

	食事をしない ときもある	1回	2回	3回	4回以上	全体
8時間以上	1.67		2.22	2.34	2.67	2.27
8時間未満		2.15	2.25	2.45	2.53	2.35
7時間未満	2.04	2.13	2.26	2.39	2.61	2.32
6時間未満	1.91	1.72	2.30	2.44	2.00	2.32
5時間未満	2.30	2.60	2.18	2.45	2.01	2.30
4時間未満	1.93	2.35	2.06	2.21		2.22
徹夜することが多い	1.99		2.17			2.12
眠れない日が多い	1.98		1.89	2.08		1.93
全体	2.03	2.20	2.25	2.41	2.24	2.27

規則正しい生活を送ることが成績に大きく関係することが分かる

1.本学学生の傾向 本学IR推進室のデータより

親との成績・進路に関する会話と成績

『よく話し合う』『時々話し合う』と答えた学生のGPA2以上率は『ほとんど話し合うことはない』『まったく話し合いはしない』と答えた学生より**8.5%**高く、年内進路決定率は**約4%**高くなっている。

→学生と保護者が成績や進路についてよく話していると、GPAや進路決定に影響があると言える

2022年度学習成果アンケート・学生生活アンケートより

1.本学学生の傾向 本学IR推進室のデータより

アルバイトを適度に行っている学生は早期内定率が高い

早期内定をした学生のうち70.9%が定期・不定期どちらかでアルバイトをしている。

考えられる要因として、**社会性を養うことや、社会理解、そして働くことに対しての理解の促進**につながるのではないだろうか。

1.本学学生の傾向 本学IR推進室のデータより

早期内定者はインターンシップ参加企業数が多い

3社以上参加で73.1%、**4社以上参加で82.4%**となっており、5社以上参加78.3%、6社以上参加で80.8%となっている。

1.本学学生の傾向

- 1年生後期のGPAはその後に影響がある
- 成績優秀者は規則正しい生活を送っている
- 学生と保護者が成績や進路について、時々でも話しをしていると成績も良く、年内での進路決定率も高くなる
- 早期内定者は3社以上のインターンシップに参加している

2.保護者の方に心掛けてほしいこと

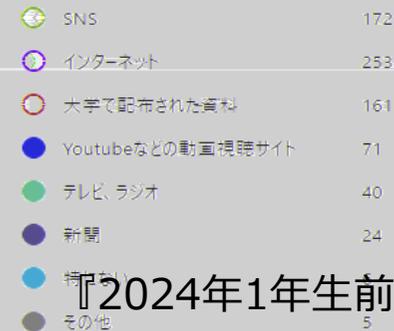
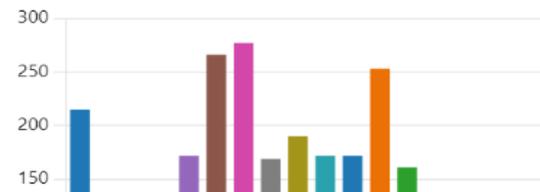
2. 保護者の皆様に心掛けてほしいこと 大前提

10. 就職や進路のことを考えるときにどのようなところから情報を得ますか
※複数回答可

詳細



**保護者の皆さんが学生にとって
一番身近な社会人である**



『2024年1年生前期意識調査』より

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと 情報のアップデート

①オープンカンパニー（超短期（単日））

オープンキャンパスの企業・業界・仕事版

②キャリア教育（産学協働プログラムを想定）

主に1～2年生向けで、自らの職業観を考えることが目的

③汎用的能力・専門活用型インターンシップ

学部生（主に高学年）、大学院生向けで、見極めが目的

④高度専門型インターンシップ

大学院生向けで、専門性を実践で生かし、向上させる

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと 情報のアップデート

③汎用的能力・専門活用型インターンシップ

学部3年、4年の長期休暇期間での実施で、『汎用的能力』については**5日間以上**、『専門』については**2週間以上**の期間が定められており、**半分以上を職場などでの就業体験にあてなければいけない。**

(テレワークが常態化している場合は含まれる)

また、職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後に**フィードバックすること**も条件となっている。

マッチング精度向上、採用選考を視野に入れた評価材料の取得が企業の目的となる

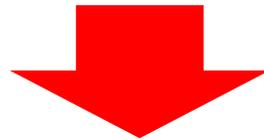
2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと 情報のアップデート

やりたいことがはっきりしている学生

1～2年次に社風や環境を知るために、希望業種・職種のオープンカンパニーやインターンシップを数社受けてみる

やりたいことが見つかっていない学生

様々な業界、職種のオープンカンパニーを受けてみて、自分のできることや価値観と照らし合わせてみて、何にやりがいを感じるか考える



3年次に5日以上インターンシップへの参加

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと 情報のアップデート

現1、2、3年生は早期からのインターンシップへの参加が進路に繋がりやすくなる。

インターンシップの内容によっては選考にそのまま情報が使用できるようになった。

新卒の逆求人（オファー型）や紹介、リファラル採用、さらには通年採用に力を入れている企業も増えてきている。

採用方法・採用時期が多様化してきている

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと

「就活で大切なのは、親が『子離れ』することです。」

親の心構えとして、

- ①自分で考えさせる
- ②話を聞いてあげる
- ③まず本人にやらせてみる
- ④自分で決断させる

+ できたことは認める

出典：2012年3月12日 毎日新聞東京朝刊

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと

相談を軸とするようなかかわり方 → **ポジティブな結果**

就職活動がどれだけ進んでいるのかについて
管理しようとするかかわり方 → **ネガティブな結果**

過度の心配によって親の干渉が強まることは、子どもの就職活動にとって良い結果を生まない可能性がある（干渉ではなく相談、信頼関係を）

保護者の就職活動へのかかわり方が与える影響は大きい

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと 大学院進学

自身が研究したいテーマを追究できるか、教授の専門分野が研究テーマに合致しそうか、仕事に役立つ技能や知識を得られるか。さらには履修プログラムや研究の環境はどうか。充実した大学院生活のために、できるだけ具体的に確認する必要がある。

そのため、早期からどこの大学院、研究室なら自身の研究したいことができるかを調べておくと良い。

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと 保護者のスタンス

これから私たちが生きる社会においては、急激な変化もあり、人生上の『標準』コースは存在せず、**どこで転機が訪れるかは、誰にも予測できない。**

ライフキャリア上の様々なイベントや転機に対応できるための準備が必要となる

キャリアアダプタビリティ（適応力）を身につける

2.保護者の皆様に心掛けてほしいこと

『やりたいことが分からないから動きが遅くなる』のでは少しもったいない。

やりたいことが分からなければ、視野を広げるために、『**こだわり過ぎず、ひとまずどんな業界・企業でも見てみる、聴いてみる、気軽に相談してみる**』という気持ちを持たせてあげてください。

コミュニケーション力よりも、『**自己流での活動**』や『**こだわりの強さ**』が就職困難につながるとする研究結果もある

最後に

私たちが考える良い進路・就職とは

■ 卒業時

- ・ 学生の自身の進路に対する納得度
- ・ 各学科が目指す進路

■ 卒業後

- ・ 卒業生の活躍度
- ・ 企業の満足度

〈学部3年生・4年生のみなさんへ〉
就職活動にかかった交通費と宿泊費を助成します！

～東北芸術工科大学保護者会 就職活動支援金制度～

- 申請に必要な書類の準備、提出期間までの保管 提出期間中に申請
- ※ 活動内容をキャリア支援サイトの「活動報告書」に活動内容を登録
(就職活動：インターンシップ参加、会社訪問、合同企業説明会参加、教職採用試験受験 等)

■対象となる費用

就職活動における移動や滞在にかかった交通費と宿泊費。(かかった費用の一部を申請することが可能です。) ※活動日の前日及び当日分に限りです。

3年生 上限20,000円

4年生 上限20,000円

必要な書類や申請方法などはキャリアセンターにお問い合わせください。

ご清聴ありがとうございました